

<b>1 学校教育目標</b>
教育目標…道義心の高揚(徳育) 実力の養成(知育) 健康の増進(体育) 中・長期目標…めざす学校像 「生き生きと活力ある学校」 校訓「至誠剛健(しせいこうけん)」(誠実さと真心を大切に、心身の強さ、健やかさをもって、何事にも積極的に取り組み、力強く生き抜く力を身に付ける)のもと、日々、生き生きと活力ある教育活動に努めている学校

<b>2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)</b>
○ 基礎学力定着のために、面接指導や平日学習会における学習支援の工夫・改善及び視聴報告の普及が必要である。 ○ 生徒の主体的な活動をいっそう引き出すことができるように特別活動等の内容の工夫が必要である。 ○ スクーリング等でのマナー維持向上について、個別指導など働きかけの方法を工夫しながら、引き続き指導していく必要がある。 ○ 多様な生徒が在籍している現状を踏まえ、より安心・安全なスクーリングのために必要な事柄を、引き続き検討していく必要がある。

<b>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</b>
① 基礎・基本の定着をめざす学習指導の推進 ② 自律的な生活態度を育み、自己肯定感を高める生徒指導の推進 ③ 一人ひとりの夢や目標の実現につながるキャリア教育の推進 ④ 特別活動をおとした豊かな心や社会性を育む取組の推進 ⑤ 緊密な連携・協働の推進による組織力の強化 ⑥ チャレンジ目標:それぞれに合った目標の達成をめざし、計画的に学習を進めよう! マナー・ルールを守り、スクーリング時の良好な学習環境を保とう! 友達の手を助け、学校行事に積極的に参加し、学校生活を充実させよう!

4 自己評価					5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等
学習指導	スクーリング・レポート等の質的向上をめざす。	生徒アンケートをもとにスクーリング及びレポート添削の質的向上に取り組む。	4 スクーリング内容について理解できると回答した生徒が80%以上となった。 3 スクーリング内容について理解できると回答した生徒が70%以上となった。 2 スクーリング内容について理解できると回答した生徒が60%以上となった。 1 スクーリング内容について理解できると回答した生徒が60%未満であった。	3	スクーリング内容について「理解できる」と回答した生徒は77%、レポートの「難易度が適当である」と回答した生徒は87%であった(生徒アンケート集計)。スクーリングでは、個別対応を重視しており、学習書とは別に学習支援のための補助プリントを作成するなどして基礎的・基本的事項の理解と定着に努めている。レポート指導では、発問の工夫など内容の改善に努めるとともに、復習のポイントを具体的に分かりやすく指示するように心掛けており、平日学習会や電話相談など質問の機会を確保できるようにしている。また、ICTを利用した面接指導も昨年度以上に積極的に実施した。 今後も生徒の状況に合わせた支援の方策を検討していきたい。	在籍数は多いが、個別対応を心掛けており、指導内容にも多くの工夫を凝らしている様子がうかがえる。生徒アンケートの内容も数値が向上しており、評価できる。多様な生徒を支援するために、今後も新たな実践の機会を増やしてほしい。
	教育課程の円滑な実施・検証及び生徒の実態に応じた教科指導等について検討を進める。	教育課程実施上の課題等を検証するとともに、生徒の実態に応じた教科指導の方法について、教科内会議等で検討する。	4 教科指導に関する検討会を年間10回以上実施した。 3 教科指導に関する検討会を年間7回以上実施した。 2 教科指導に関する検討会を年間5回以上実施した。 1 教科指導に関する検討会を実施したのは年間4回以下だった。	3	教科指導に関する検討会をこれまでに計7回開催した。各教科、生徒の学力差に対応した教科指導の方法(スクーリング、レポート内容の改善)などを検討した。学力格差に対応した教科指導については、英語科(コミュニケーション英語Ⅰ)では復習用プリントの配布、数学科(数学Ⅰ)ではレポート作成のための補助プリント配布等、基礎科目を中心に学力向上に努めた。 また、スクーリングの出席が難しい生徒の学習環境の改善策の一つとして、視聴報告の提出で、出席の代替ができる科目を増やすよう検討している。	学習進度に大きな差がある状況で、継続的に指導方法の検証を行い改善を行っている様子がうかがえる。特に基礎科目の学力向上に引き続き取り組むとともに、学習機会の保障の面から、今後も視聴報告の拡充を検討してほしい。
	個人面談による受講指導を充実し、受講率の維持向上に取り組む。	受講を継続させるため、新入学生徒に対する支部担当からの働きかけを充実させる。	4 受講継続者が80%以上となった。 3 受講継続者が70%以上となった。 2 受講継続者が60%以上となった。 1 受講継続者が60%未満であった。	2	受講継続者は62%であった(昨年度は60%)。受講指導は生徒の希望や特性等に配慮しながら、個別に実施している。ただ、生徒の中には、受講指導を受けても、レポートの提出やスクーリングへの出席等の活動が見られない生徒もおり、通信制の課題の一つとなっている。来年度は、こういった生徒に対して、支部担任を中心に粘り強いはたらきかけを行う必要がある。	諸事情により受講を休止している生徒が一定数いることは理解できる。生徒在籍期間中は継続して情報発信を行い、特に1年次生の受講の継続を勧めしてほしい。
	各教科及び各支部担当を中心に各方面での検討を行い、単位修得率維持向上に取り組む。	レポート、スクーリング、学習指導などの検討を行い、1年次科目の単位修得率の維持向上に取り組む。	4 1年次科目の単位修得率が、8科目中7科目以上で昨年を上回った。 3 1年次科目の単位修得率が、8科目中5科目以上で昨年を上回った。 2 1年次科目の単位修得率が、8科目中3科目以上で昨年を上回った。 1 1年次科目の単位修得率が昨年度を上回ったのは、8科目中2科目以下であった。	4	1年次全科目通年の単位修得率平均は37.7%(昨年度32.2%、一昨年度37.3%)であった。1年次の単位修得率が昨年度を上回った科目は、前期は8科目中7科目、後期は全科目であった。昨年度の結果を受け、各教科が基礎基本分野の指導に力を入れたことなどが要因となり、良好な成果を上げた。今後もレポート提出やスクーリング出席を積極的に促すなどの学習支援を継続し、更なる修得率の向上をめざしていきたい。	1年次生は諸事情から単位修得が困難になる場合も少なくないが、今年度は学習支援が功を奏し、比較的良好な結果を残すことができた。今後も1年次生が就学しやすい環境を整え、少しでも多くの生徒が卒業に必要な単位を取得できるよう引き続き支援をお願いしたい。

生徒指導	集中スクーリング・鴻ノ峰登山などの学校行事に積極的に参加させる。	生徒会執行部の活動を活性化し、生徒主体の学校行事となるように全教員のサポート意識を高める。	4 特別活動への参加者が150人以上であった。 3 特別活動への参加者が100人以上であった。 2 特別活動への参加者が50人以上であった。 1 特別活動への参加者が50人未満であった。	4	特別活動への参加者は185人(昨年度189人)であった。集中スクーリングにおける外部講師等を活用した特別講座(開催した講座:「マナー講座」「心のケア講座」「薬物乱用防止教室」「進路講座」「人権教育」「喫煙防止教育」「校長特別講話」)への参加者は80人(昨年度105人)であった。また、9月に実施した秋季特別活動には、47人(昨年度34人)の生徒が参加し、しものせき海響館や、唐戸市場周辺での楽しいひとときを過ごすことができた。10月に実施した鴻ノ峰登山は、残念ながら雨天中止となり、会議室でのビデオ鑑賞に代替えしたが、46人(昨年度46人)の生徒とともに同窓生も参加し、昼食をはさんでゲーム大会も行われ、親睦を深めた。	近年、生徒会活動が活性化し、特別活動への参加者が増加したことは評価できる。今後もこの体制が維持されるよう、行事内容の工夫・改善に努めると同時に、新しい企画を取り入れるなどの試みを行っていただきたい。	A
	スクーリング時のマナーの維持向上に取り組む。	スクーリング時の敷地内禁煙・駐車マナー・ゴミの持ち帰り等について粘り強く呼びかけ、モラルの維持向上に取り組む。	4 特別指導が1件以内であった。 3 特別指導が3件以内であった。 2 特別指導が5件以内であった。 1 特別指導の件数が5件を超えた。	3	今年度の特別指導件数は、2件であった。スクーリング時のマナーについては、今年度も落ち着いた学習環境が維持されている。その一方で、敷地外のタバコの吸い殻やゴミの廃棄などもわずかながら生じている。今後も、今の学習環境を維持継続し、さらなるマナー向上に向けて粘り強く取り組んでいく。同時に、スクーリング環境の安心・安全を保证するため、よりきめ細かな生活指導を継続していきたい。	近年向上しているスクーリング会場でのマナーの良さが維持されていることは評価できる。今後も良好な学習環境の維持に努めていただきたい。	B
	他人を思いやり、自己肯定感を高める気持ちを育ませる。	各種研修により全教員の認識を深め、スクールカウンセラーとも連携し、教育相談活動を充実させる。	4 教育相談に係る研修会等を5回以上実施した。 3 教育相談に係る研修会等を4回以上実施した。 2 教育相談に係る研修会等を3回実施した。 1 教育相談に係る研修会等を実施したのは2回以下だった。	4	集中スクーリングでのスクールカウンセラーによる「心のケア講座」(生徒・教職員対象)等の教育相談に係る研修会・情報交換会をこれまで4回実施した。さらに2月下旬に定時制と合同で教育相談に係る研修会を実施する予定である。また、週2回の定例会の中で、生徒の状況の情報交換を実施し、情報の共有や指導方法の検討・確認を行い、ささいな事と思われる情報についても伝え合い、早期発見・早期対応に努めた。	教育相談活動を重視し、生徒の自己肯定感高揚の実践に努めている様子は評価できる。一人でも多くの生徒が夢や目標をもてるよう引き続き取り組んでいきたい。	A
進路指導	様々な機会を捉えて、自分で考え、判断し、決定する自己指導能力向上に向けた指導に取り組む。	個々に適した進路に向けての資料・情報の提供を積極的に行い、在学時から将来に向けての生き方等について考えさせる。	4 将来の進路について生徒に考えさせる機会を年に10回以上もった。 3 将来の進路について生徒に考えさせる機会を年に8回以上もった。 2 将来の進路について生徒に考えさせる機会を年に6回以上もった。 1 将来の進路について生徒に考えさせる機会をもったのは年に5回以下だった。	4	月刊の機関誌「灯窓」に「進路だより」を掲載(4回)するとともに「進路ニュース」を全員に6回送付した。また、全受講生に「進路の手引き」を配布した。その「進路の手引き」の中の進路相談用紙を使用しての紙面での相談は4件に留まった。また就職希望者向けの「マナー講座」を1回、進学希望者への「進学講座」を2回実施した。夏の「進学講座」では、受講生が8名あった。今後は、特に進学指導において、教育相談担当と更なる連携を図り、個人面談を通じての生徒のキャリアデザインの支援が不可欠である。同時に、全受講生の進路希望調査結果を支部担任に還元して早期からの適切な指導に努めたい。	情報発信の機会を十分に確保し、進路指導に真摯に取り組んでいる様子がうかがえる。教育相談と有機的に連動したシステムの構築をめざして、生徒の進路先が保障されるよう、なお一層の努力をお願いしたい。	A
情報発信	機関誌「灯窓」やWebページの更なる充実と周知に取り組む。	機関誌「灯窓」の発行とWebページの更新を定期的に行い、その閲覧を呼びかける。	4 Webページの閲覧率が50%以上であった。 3 Webページの閲覧率が40%以上であった。 2 Webページの閲覧率が30%以上であった。 1 Webページの閲覧率が30%未満であった。	4	機関紙「灯窓」は、手続事項や行事案内・試験範囲等重要な情報を定期的に伝える手段として毎月発行している。写真や随想・コラム等も掲載し親しみやすいものとなるように心がけた。また、内容の精選を行うことにより編集の効率化と情報伝達の迅速化を図っている。 Webページの閲覧率は61%であった。生徒が携帯端末から支部情報を確認する他に、メールによる教育相談の依頼も寄せられている。入学希望者が募集要項を閲覧したり、卒業生等が証明書発行依頼に利用する機会も多い。	Webページの閲覧率が高いことは評価できる。これからは内容面でも一層の充実を期待したい。	A
学校運営	各種検討会を積極的に実施し、諸課題の解決に取り組む。	各種検討会を定期的に開催し、通信制教育の充実や諸課題の解決をめざす。	4 各種検討会を月に3回開催した。 3 各種検討会を月に2回開催した。 2 各種検討会を月に1回開催した。 1 各種検討会を開催したのは2月に1回程度だった。	4	週2回(月・金曜)の定例会が、情報共有や諸課題解決に役立っており、教務部・生徒部ともに各種業務の運用と実施後の状況について共通理解を図り、教育相談に係る情報交換や生徒対応の検討も行った。生徒に関する重要案件及び生徒会行事についての分掌会議は11回実施し、生徒状況の早期把握と早期対応、さらに行事の活性化を心がけた。また重要案件以外や、教育相談係と支部担任間または進路部間の情報交換も随時行い、生徒の自己実現を積極的に支援した。	職員が協働して業務にあたっている様子がうかがえる。今後は更なる連携をめぐり、きめ細かな情報交換、共有を行ってほしい。	A

業務の改善と組織力の強化	学校の組織等	全日制課程、定時制課程、通信制課程、徳佐分校、事務室が重点目標や具体的方策を共有する。また、日常的に情報交換を行うとともに、定期的に学校運営検討会議を開催し、諸課題解決のための検討を行う。	4 おおよそ月に2回程度(年間20回以上)学校運営検討会議を開催した。 3 月に1回(年間12回以上)学校運営検討会議を開催した。 2 おおよそ月に1回程度(年間10回以上)学校運営検討会議を開催した。 1 2か月に1回程度(年間6回以上)学校運営検討会議を開催した。	3	当面の課題解決や情報共有を目的とした学校運営検討会議を月1回程度開催できた。また会議を通じて協働と連携も進み、円滑な学校運営が実現できた。ただ、中・長期的な課題の検討については不十分であった。また会議の回数を増やし、定期的に開催するためには、関係者全員のスケジュール調整が頻繁に必要になり、今年度の課題として残った。	学校運営検討会議の定期開催は困難であるとしても、日常的に情報交換は緊密に行い、互いに連携を図って一体感のある学校運営を行ってほしい。	B
	日常的な業務	各分掌の各担当ごとに業務マニュアルを作成改善し、そのファイルを教員全員が共有できるようにする。	4 各分掌のすべての業務マニュアルを共有できるようになった。 3 90%以上の業務マニュアルを共有できるようになった。 2 80%以上の業務マニュアルを共有できるようになった。 1 共有できるようになった業務マニュアルは80%未満だった。	3	各分掌・各担当ごとに計画された業務マニュアル(担当用)計20項目のうち、作成し共有できるものが18項目ある。さらに、業務の効率化を図るため、残りの業務マニュアルの作成及び共有ファイルの整理を進めていくが、今年度は既成のマニュアルについての改善を行った。	マニュアルの検証と更新等再整備に努め、利用価値をより高めてほしい。	B
	勤務状況	健康診断における要精密検査該当者に検診・受診を積極的に勧める。	4 検診・受診が80%以上であった。 3 検診・受診が70%以上であった。 2 検診・受診が60%以上であった。 1 検診・受診が60%未満であった。	3	該当者に対して、個別に受診勧奨を進めており、1月末現在71%(昨年度60%)である。今後も勧奨を進める。	健康管理についての啓発に努めるとともに、受診率向上のため、さらなる受診勧奨や受診しやすい環境づくりを行ってほしい。	B
	教職員の心身の健康の推進。						

6 学校評価総括(取組の成果と課題)	
(学習指導)	各教科でレポート内容を見直し、補助教材も充実させつつある。ICTによる面接指導の数も増加するなど単位修得率向上に向けての努力が見られた。 その結果、特に1年次生の単位修得率は昨年度に比べて向上し、本校入学後に通信制課程の学習に円滑に入ることができた。
(生徒指導)	生徒会活動は昨年度同様充実しており、学校行事への参加者が増えている。 スクーリング会場でのマナーは向上し、基本的には良好な学習環境が維持されているが、その一方でゴミや吸い殻などの投棄も一部に見られる。 今年度も教育相談と支部担任との連携により、該当生徒の状況に応じた適切な対応をとることができた。 教育相談件数がさらに増加傾向にあることをふまえ、生徒の自己肯定感を高めるための機会を数多く見出す努力が必要である。
(進路指導)	「進路の手引き」や各種講座の活用により、進学希望者のみならず、就職希望者への情報提供にも努めた。 県内各ハローワークとの連携を図り、公開求人票利用による就職活動を行うことができた。 一昨年度構築した就職指導の体制をさらに向上させていく必要がある。
(情報発信)	機関紙「灯窓」でメッセージの発信を行うとともに、携帯用Webページを頻繁に更新した結果、閲覧率が高まる傾向にある。 卒業記念誌「灯」は昨年度同様、各種コンクール受賞作品が増えて充実した内容となった。 生徒への適切な情報伝達や、外部への広報活動について、今後も工夫・改善を加えながら継続する必要がある。
(学校運営)	週2回の定例会をベースとし、教科会や生徒部会等で諸問題の検討が行われた。 重要案件を協議する場合に備えて、引き続き日頃からきめ細かい情報交換と共通理解に努める必要がある。
(業務改善)	作成済みのマニュアル類の再編整備を行った。 教職員の健康管理については、やや意識が停滞したと思われる。 今後も、引続き職員間の緊密な連携を維持する必要がある。

7 次年度への改善策	
(学習指導)	基礎学力定着のためにレポート内容の改善や、スクーリング時における指導方法について引き続き協議・検討する。 学習が進まない生徒に対しては平日学習会や個別指導などの他に電話を利用した支援機会を積極的に増やすようにする。 スクーリングへの出席が困難な生徒には視聴報告の積極的な利用を呼びかける。 興味関心のある各種コンクールへの応募を促し、自己肯定感を高めるための機会の提供を推進する。 1年次生の単位修得率の向上をめざした具体的な取組を引き続き継続する。
(生徒指導)	スクーリング時の過ごし方として教室内外での生活マナーを遵守することや、面接指導中の穏やかな雰囲気を持することに引き続き努める。 問題を抱える生徒への関わりの糸口としてキャッチカウセリングを行い、スクールカウンセラーあるいは支部担任への橋渡しとなるように心がける。 生徒会活動や学校行事を通じて親睦の和を広げ、協働することにより自己有用感を高める契機とする。 秋季特活や鴻ノ峰登山等の特別活動の工夫・改善を行うことにより、豊かな心を育む契機とする。
(進路指導)	「進路だより」や各種講座の開催により、進学希望者及び就職希望者の進路意識を高めるよう引き続き努める。 教育相談担当と進路指導担当、そして支部担任が連携し、面談等とおして低学年次からのキャリアデザインの設定を引き続き推進していく。 県内各ハローワークとの連携を強化し、就職内定率を向上させる。
(情報発信)	機関紙「灯窓」や卒業記念誌「灯」の内容を更に充実させ、より有用な情報を発信できるよう努める。 携帯用Webページにより、スクーリングやレポート提出及び、諸手続きの期限などについて支部ごとにきめ細かく注意喚起を行う。 入学案内の段階で通信制課程の特徴や実際の様子などをよく分かるように伝え、内容を理解した上での出願を促すよう努める。
(学校運営)	重要案件の協議においては、全員で連携を保ちながらできるだけ良好な解決方法を見出せるように努める。 通信制課程での経験が豊かな教員のノウハウが継承できるように努める。
(業務改善)	職員間の連携を緊密に保ち、情報をできる限り共有することで、協働して課題を解決できるよう引き続き努める。 整備したマニュアルの更新箇所について、共通理解を深めるよう努める。 教職員の健康管理についてはお互いに高い意識を持つよう努める。

※ 学校関係者評価の基準 A:取組が優れている B:取組がよい C:取組がおおむね行われている D:取組に改善が必要